

新型コロナ予防接種を受けるにあたっての説明

【新型コロナウイルス感染症とは】

新型コロナウイルスに感染することで起こります。感染経路は主に飛沫感染です。症状は、発熱、のどの痛み、咳などが中心です。高齢者や基礎疾患のある場合、重症化のリスクがあるとされています。

【ワクチンの効果】

感染を完全に阻止する効果はありませんが、発症予防や重症化予防の効果があることが確認されています。使用ワクチンはメッセンジャーRNA（mRNA）ワクチンという種類です。ウイルスのタンパク質を作る基になる情報の一部を注射します。人の体の中で、この情報を基に、ウイルスのタンパク質の一部が作られ、それに対する抗体などができることで、ウイルスに対する免疫ができます。

【ワクチンの副反応】

- 接種部位の痛み、頭痛、関節や筋肉の痛み、疲労、寒気、発熱等
- ショック、アナフィラキシー
- 心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されています。接種後数日以内に胸の痛みや動悸、息切れ、むくみ等の症状が現れたら、速やかに医療機関を受診してください。
- ワクチン接種後にギラン・バレー症候群が報告されています。接種後、手足の力が入りにくい、しびれ等の症状が現れたら、速やかに医療機関を受診してください。

【接種を受けることができない人】

- ② 体温が37.5度以上ある
- ② 重篤な急性疾患にかかっている
- ③ 本ワクチンの成分に対し重度の過敏症の既往歴のある人（前回までの接種でアナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘息、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状があった）
- ④ 医師が不相当と判断した場合

【接種を受ける際に医師とよく相談しなければならない人】

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気がある
- ② 接種後2日以内に発熱、発疹などのアレルギーを疑う症状がみられたことがある
- ③ 今までにけいれんをおこしたことがある
- ④ 過去に免疫不全の診断を受けたまたは、近親者に先天性免疫不全症の者がいる
- ⑤ ワクチンの成分に対してアレルギーを起こすおそれがある
- ⑥ 抗凝固療法を受けている者、血小板減少症又は凝固障害を有する

【接種を受けたあとの注意事項】

- ① 接種後30分は急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう
- ② 副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③ 接種部位を清潔に保ち、接種当日は激しい運動は避けましょう。
- ④ 入浴してもいいですが接種部位をこすらなようにしましょう。
- ⑤ 万一、異常な症状があらわれたら、速やかに医師の診察を受け、したら保健福祉センターまでお知らせください。

【予防接種健康被害救済制度について】

予防接種は感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になったり、障害が残ったりすること）が起こることがあります。きわめてまれなものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。詳細や申請方法については町ホームページをご覧ください。したら保健福祉センターへご相談ください。